

【症例 1】

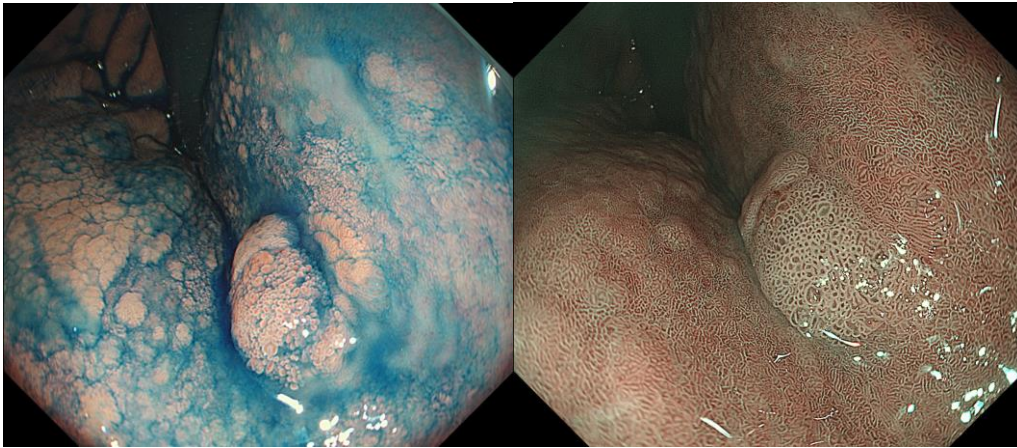
症例提示：岐阜県総合医療センター 山崎健路

読影：仙台オープン病院 山形拓、信州大学 長屋匡信

病理コメント：静岡がんセンター 下田忠和

症例：70 歳台、男性。 *H.pylori* 除菌後。上部消化管内視鏡検査で胃病変を指摘された。

最終診断：Adenocarcinoma well differentiated (foveolar type) with oxyntic gland neoplasia (adenoma), pT1a-M, ly0, v0, pHM0, pVM0 (adenoma misplacement)



〈WLI 読影〉

萎縮性胃炎を背景とした境界明瞭な隆起性病変で、管状構造と乳頭状構造の部分を認める。管状構造の部分は異型度が弱く腺腫～低異型度高分化型腺癌。乳頭状構造の部分は pap などの癌で、一部癒合した部分は一段異型が高く、tub2 の可能性もある。深達度は浅く粘膜内病変と思われるが、pap の深部で低分化になって深部浸潤している可能性もある。

〈NBI 読影〉

乳頭状構造の部分の中には、複数箇所に粘膜構造の癒合があり、異型度が高まっている可能性がある。病変部には light blue crest や WOS を認めず、胃型腫瘍と考える。

〈病理コメント〉

この病変は、これまで胃底腺型腫瘍（胃底腺型胃癌）として報告されてきた病変に明らかな粘膜内癌（乳頭状構造部分）を合併している。

この病変の平坦隆起部（管状構造部分）は、いわゆる胃底腺型腫瘍に相当する病変であり、SM に侵入しているが浸潤部で間質増生がみられず、SM 偽浸潤と考えられる。いわゆる胃底腺型胃癌では、脈管侵襲の頻度が低く、Ki67 標識率が低く、リンパ節転移率が低く、低悪性であることが知られており、腺腫と考えるべきと考えている。

本病変は胃底腺型腺腫の表層に腺窩上皮型腺癌が併存したと思われる。